

「学生による授業評価」の信頼性について

金 明哲

1. はじめに

政府の高等教育政策の諮問機関である大学審議会は1991年2月に、大学設置基準等の大綱化・簡素化についての答申を行った。審議会答申には自己点検・評価システムの導入が提言されており、文部省の基準改正にも各大学等における自己点検・評価の努力義務規程が設けられた。

その後大学の自己評価ブームが起き、自己点検・評価の一環として、多くの大学で学生による授業評価が行われている。本学においても、1995年に第一回自己点検・評価報告書を出し、1998年度には第2回の自己点検・評価の報告書を出す計画が進み、1997年12月に全学規模の学生による授業評価のアンケート調査を行った。

学生による授業評価は、授業に対する学生(大学院生と学部学生)の関心を高め、授業内容や方法を改善するための一つの方法で、教員に緊張感を持たせ、いいかげんな講義を減らすには効果があるとの指摘がある。

学生による授業評価が成功するかどうかは、受講生がどの程度真面目で積極的に参加するかが鍵となる。一方、出席率がかなり低い受講生が、はたしてどれだけ正確に「授業評価」が可能であるかも一つの疑問である。

「学生による授業評価」のアンケート調査から正確に情報を読み取るには学生の現状を正しく把握するのが重要である。臨床教育学の研究に専念している武庫川女子大学教育研究所・同大学院の島田氏は学生の状況を以下の

ように分析している。

「キャンパスが学生でにぎわうのは、新学期早々と試験前後の日々ぐらいになってきている。学生にとっての大学の意味は、学歴獲得や資格取得のためで、必ずしもその実を得ることにはない。

学生が授業場面に期待するのは、教師が学んでほしいと思うような、体系的な知識や技能の獲得ではない。

学生の期待は、主に二つある。ひとつは、単位取得のために必要な、あるいは自分にとって興味ある「情報へのアクセス機会」の獲得である。もうひとつは、仲間との「情報交換や交流」である。

前者の目的のために、学生は聴講登録の時期である学期当初と、試験期間前後にキャンパスに出発する。後者の目的のために、授業の社交場として活用する。

授業やキャンパスの形骸化は、要領よく学生時代を送りたいと思っている学生にとっては、大して問題ではない。

惨憺たる授業の現状を嘆くのは、主に大学教師である。キャンパス・ライフにおいて、授業の位置づけが低いため、学生は授業をないがしろにする。授業を積極的に理解しようとはしないし、そうしようとしても、難しい雰囲気教室にある。ほっておけば、たいい学生が喧嘩に埋まってしまう。

昨今、大学評価の波が押し寄せてきている。授業をしっかりと聞いていないにもかかわらず、学生による授業評価となると、なかなか手厳しい。

「やさしい」と思われている教師には、わからない、つまらない、役立たないなどの言葉を容赦なく浴びせる。学生の仮借ない言葉の連なりに、教師は憤慨する。気持ちが収まらない教師の場合、逆襲を試みる。学生を罵倒したり、試験で報復したり……。

教師があまりにも独りよがりで気が強いと、学生はだんまりや無視を決め込む。そればかりか、「厳しい」先生と判断するや否や、学生は授業評価をそれなりに手加減したり、実際以上に高く評価し、難を避ける。いやはや、学生はなかなかしたたかである。

教師と学生のディスコミュニケーションの結果、大学の授業改善はうまく運ばなくなる。学生による授業評価を実施しても、教師と学生との壁や溝は、依然として温存されたままか、一層深まる。両者は同じ教室にいながら、まるで別々の空間にいる住人のようである。

本来、授業評価は授業改善を目指すものである。にもかかわらず、こんな悪循環を生み出しているのは皮肉である。

もちろん、すべての授業で、このような悪循環が生まれているわけではない。わかりやすく、面白く、役立つ授業もある。だが、たとえそのような授業でも、「楽勝」でなかったり、なんらかの束縛があるとすれば、学生による授業評価は途端に厳しくなりがちである。」(島田 1997)

島田氏が述べたように「学生による授業評

価」の信頼性について教員側は疑問を隠せないのが現状である。

「学生による授業評価」の信頼性に関して東海大学の安岡らは1993年に教員を対象とした「学生による授業評価に関するアンケート調査」を行った。調査票の問4が学生による授業評価の信頼性について教員側に回答を求めたものである(安岡・他 1994)。その調査結果を表1に示す。

安岡らの調査研究では、「全面的信頼できる」と「ほぼ信頼できる」を合わせると61.2%となり、基本的には学生による授業評価が信頼できるが、教員は全面的に信頼しているわけではなく、多かれ、少なかれ不信感を抱いており、94.4%の教員が信頼できない理由を指摘していることが明らかにされた。

このようなことは大学によって程度の差はあるが、共通点があるのではないかと思う。学生による「授業の評価」の信頼性をどう評価するかは非常に難しい問題である。本文では筆者が担当している一つのクラスの調査票から教員達が不信感を持っていることを裏付けるデータが得られたので報告する。

2. 事実と回答結果の 食い違いからみる信頼性

今年度筆者が担当している科目の中でアンケート調査対象となったのは「ソフトウェア概論」、「情報システム概論」2つの科目である。「ソフトウェア概論」は選択必修科目で登

表1 東海大学の調査結果

実施した*結果の信頼性に関する選択肢	「信頼できない」に占める割合
全面的に信頼できると思う。	7.9%
信頼できない部分もあるが全体としてはほぼ信頼できる。	53.5%
どちらとも言えない。	29.9%
あまり信頼できない。	6.3%
全く信頼できない。	1.6%
その他	0.8%

*東海大学で行った「学生による授業評価」のアンケート調査を指す(筆者注)。

録人数は 207 人である。「情報システム概論」は必修科目で、前の年度に履修したが単位が認められなかった生徒が主で、登録人数は 21 人である。「ソフトウェア概論」の講義のアンケート調査が先行し、調査票の回答に矛盾があることを気づいたので、「情報システム概論」の講義のアンケート調査のときには事前に注意を行った。したがって、本稿の分析には「ソフトウェア概論」の講義のアンケート調査に限る。

「ソフトウェア概論」の講義の登録人数は 207 人であるが前年度でリタイヤしたのが 14 人いるので事実上アンケート調査の対象は 193 人である。回収されたアンケート調査票は 158 部で、アンケート調査対象全体の約 82% を占める。

今回のアンケート調査に用いた調査票を付録 1 に示す。

本稿の分析に用いるのはアンケート調査票

の問 1、問 16 であるので、その内容を図 1 に示す。

158 人のアンケート調査票の問 16 に関する回答結果は「使用しない」が 69 人で、全体の 43.67%、無回答が 2 人で、全体の 1.27%、使用効果に関して点数を付けているのが 87 人で、全体の 55.06% を占める。出席率の階級ごとに「使用しない」と回答した詳細の結果を表 2 に示す。

調査対象となった講義ではスライド・OHP・AV 機器は一回も使わなかったが使用効果について何らかの評価を受けているのが 55.06% にのぼるのが驚きである。本アンケート調査の回答の結果について、主ないくつかの疑問を下記にする。

疑問点 1：表 2 からわかるように出席率が非常に低い学生の中でも「使用しない」項目に印を付けているのがいる。その学生達はどのようにして講義にスライド・OHP・AV 機器が使用

問 1 この講義に対するあなたの出席率はどのぐらいですか。

	100%~80%	80%~60%	60%~40%	40%~20%	20%以下
回答欄	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]

問 16 講義でのスライド・OHP・AV 機器の使用は、効果的なものであったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	使用しない
回答欄	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]	[×]

図 1 問 1、問 16

表 2 出席率の階級ごとの「使用しない」と回答した結果

出席率の階級	全体に占める割合 (単位は%)	使用しない		
		人 数	階級の中に占める割合	全体に占める割合
20%以下	16 (10.13)	6	37.5%	3.8%
20%~40%	20 (12.66)	9	45%	5.7%
40%~60%	53 (33.54)	21	39.62%	13.29%
60%~80%	42 (26.58)	16	38.1%	10.13%
80%~100%	27 (17.09)	17	62.96%	10.76%
合計	158 (100%)	69	43.67%	43.67%

されていないことが分かったのであろうか。スライド・OHP・AV 機器は毎回の講義ではなく、場合によって必要に応じて使用することも考えられる。もしかすると出席率が「20%以下」、「40%~20%」の学生が出席していない時間にスライド・OHP・AV 機器を使用したかもしれません。もちろん毎回講義に出席した学生に確認することも考えられるが、現時点の学生の状況から考えるとどうも不自然である。調査票を回答する際に臨席の出席率が高い方から情報を得るのも考えられるが、アンケート調査の時間はちょうどテスト時間であったので、相互議論は禁じられている。

疑問点2：スライド・OHP・AV 機器は一回も使用していないにもかかわらず87人が回答欄の「使用しない」に印を付けずに、何らかの評価を行った。これは回答者の約55%を占める。もちろんうっかりして記入間違いもあることも否定できないが、記入ミスと考えるのにはあまりにも割合が高すぎる。

疑問点3：調査票の中には4人がそれぞれの解答用紙の16問をすべて同一のカテゴリー（選択肢）に印を付けている。このような回答も非常に不自然である。

以上の3点だけでも信頼できる、あるいは分析に用いても異議がない調査票は50%を下回ると言えよう。

3. 終わりに

安岡らの研究で既に明らかになったように、「学生による授業評価」は多くの教員達はその信頼性に関して疑問をもっているのが現状である。「学生による授業の評価」の結果についてどの程度信頼すべきであるかはきわめて困難な問題である。今回の調査結果が特別のケースであるか否かに関しては定かではないが少なくとも「学生による授業評価」の信頼性について統計的に裏付けるデータが得られた。

本稿の統計結果に示ような信頼度であれば「学生による授業評価」の平均値のような単純統計量だけを用いて重大な意思決定を行うことは非常に危険であることを主張したいのが本稿のねらいである。

「学生による授業評価」の結果の信頼性については、教員側からの調査だけではなく、授業を評価する学生がアンケート調査票を記入する際の心理的な要因等を含めた多方面の実証的な研究が必要であろう。

参考文献

- 安岡・他 (1994)：「東海大学の自己評価の基本方針および学生による授業評価の信頼性に関するアンケート調査」、『一般教育学会誌』第16巻第1号，p.51-61.
- 島田博司 (1997)：「臨床教育原理」で大学の活性化を」、『教育新聞』第1877号，1997年3月20日。

付録1 「学生による授業評価」アンケート調査票

1997(平成9)年12月実施
札幌学院大学

このアンケートは、本学における今後の講義内容やカリキュラムを改善することを目的として実施するものです。無記名となっており、成績評価等に利用されることはありませんので、思うところを率直に回答してください。

下の回答欄の各設問について、該当する数字を○印で囲んでください。訂正する際には跡が残らないように黒しゴムで丁寧に消してください。ボールペン等で記入する場合は、訂正する箇所に×印を記入してください。

A) あなたの学年、学科についてうかがいます。

学年	1年 (留年含む)	2年 (留年含む)	3年	4年 (留年含む)
	[1]	[2]	[3]	[4]

学科	第一商学科	経済学科	法政学科	人間科学科	英語英文学科	社会情報学科	第二商学科
	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]

B) この講義に対する、あなたの受講状況についてうかがいます。

問1	100%~80%	80%~60%	60%~40%	40%~20%	20%以下
	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問2	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	どちらかとい え	そう 思わない
	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問3	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問4	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問5	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]

C) 講義内容・担当教員についてうかがいます。

問6	そう思う	どちらかとい え	どちらともい えない	どちらかとい え	そう 思わない
	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問7	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問8	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問9	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問10	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]

D) 講義の実施状況についてうかがいます

問11	そう思う	どちらかとい え	どちらともい えない	どちらかとい え	そう 思わない
	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問12	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問13	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問14	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
問15	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]

問11 この講義を受講していく上で、ガイダンスで配布した履修要項に記載されている各科目の講義

要項(シラバス)は、役立つものであったと思いますか。

問12 担当教員の話し方は、明快で聞き取りやすいものであったと思いますか。

問13 担当教員の黒板の字は、読み取りやすいものであったと思いますか。

問14 講義での教科書や教材は、適切なものであったと思いますか。

問15 講義でのスライド・OHP・AV機器の使用は、効果的なものであったと思いますか。

問16 この講義について、自由に感想をお書き下さい。(欄が不足する場合は、裏面を使ってください)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。